



勿来高だより

令和5年度 第1号

知性と自律
Intelligence & Autonomy

令和5年6月 2日

文責：校長 櫻田 渉

◆ ごあいさつ ◆

令和5年度は42名の新入生を迎え、113名で新学期がスタートしました。約2ヶ月が経過しましたが、新型コロナの対応緩和により、入学式を始め多くの学校行事、授業等で以前のような実施方法に戻りつつあります。地域の皆様のご協力によりたいへん有意義な教育活動を展開できておりますことに、この場をお借りして感謝申し上げます。引き続き、勿来高校生徒へのご支援をよろしくお願いいたします。

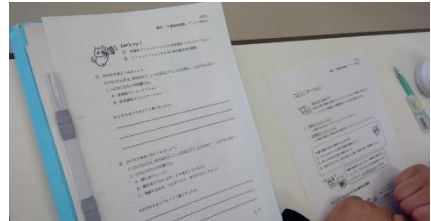
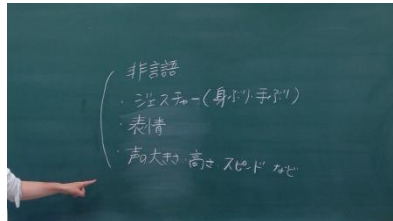
◆ 福祉の教育プログラム ◆

本校では令和5年度から福祉コースが始まり、福祉の教育プログラムを展開しながら特色化を推進します。大学・短大・専門学校や地域の事業所と連携して福祉を担う人材育成を目指します。

福祉コースの中核となる3年生の選択科目「介護福祉基礎」では、3日間のインターンシップに向け、実務上たいへん重要となるコミュニケーションについて学習しました。

介護現場では特に非言語的コミュニケーションが大切と言われています。利用者さんに安心感を与えたり、利用者さんの身体や心の変化に気づいたり。発信もそうですが、非言語面の受信には特に訓練が必要な気がします。授業担当者曰く、「伝わらないときにどうすべきかが大事だよ！」

インターンシップは、介護系以外にも、製造・サービスなど15の事業所で実施されます。



◆ 共生プログラム ◆

多様性と共生。これは勿来高校が大切にしている2つの言葉です。共生社会の実現を目指す勿来高校では、1年生が全員受講する「共生プログラム」を全3回にわたって実施します。本校の特徴的な取り組みの一つです。

5月19日(金)5校時、1年生の共生プログラム、第1回の講師は、いわき支援学校くぼた校の分校長先生です。「多様性と共生社会」という演題でお話をいただきました。

講話後の子どもたちの感想をいくつか拾ってみました。

Q: 共生社会の実現に向けて、自分に出来ること、してみたいことは何?

- ・色々な人と関わっていききたい
- ・いろんな国の人を助ける自分になりたい
- ・他人の価値観を認めること
- ・差別せずみんなで協力して何事もない地球にしたい
- ・みんなが互いに理解し合える社会になればいいと思う
- ・多様性を理解し、壁を作らずに接する
- ・色々な人と協力し、情報を共有しあうことが共生社会を実現する為の一步だと思いました



様々な意見が見られるところ、換言すれば、意見の多様性に、1学年の将来性を感じます。入学して約1ヶ月半、早くも成長が感じられる勿来高校の1年生でした。

◆ 関の子ボランティア ◆

5月10日（水）放課後。毎週水曜日は一斉下校日。本校の伝統である関の子ボランティアは水曜日に行われます。JR 勿来駅前と勿来海岸清掃を定期的に行っています。継続的な地域貢献活動が認められ、令和4年度には「うつくしまふくしま環境顕彰」を受賞することが出来ました。勿来駅前には、地域ボランティアの方々による見守りステーション「民間交番」があり、その一帯を「関の子広場」と呼んでいます。その広場の環境整備を行うのが関の子ボランティアです。第1回には20名の子どもたちが参加してくれました。

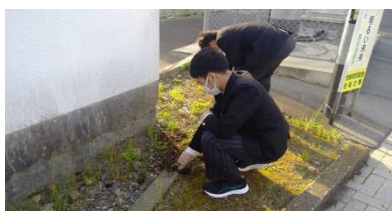
Aくん「1年生に勿来高校の伝統を引き継ぐために参加しました。」

Bくん「3年間の思い出になる活動として、1年間やり通したいです。」

Cさん「社会貢献をしたいと考え参加しました。地域の施設をきれいに保って、訪れる人によい印象を持ってもらいたいです。」

Dさん「きれいにすることが好きで利用している駅をきれいにしたいです。ほかの地域清掃などにも積極的に参加したいです。」

参加の理由は様々ですが、自ら進んで（volunteer）参加してくれた子どもたちのなんと立派なことか！ボランティアは人の為ならず、です。この経験がきっと皆さんに良い形で戻ってくるはずです。



◆ 調理実習 ◆

私の高校時代は、男子校だったため教育課程に家庭科はありませんでした。

今や時代はジェンダーフリー。性別に関係なく家事を分担し、家族が一丸となって生活の向上を目指す時代です。さて、3年生の選択科目「フードデザイン」にお邪魔しました。なんと男子生徒の方が多いですね！（←この驚きがジェンダーにこだわっている証。）

メニューは「バターロールとポテトサラダ」。授業担当者曰く、「今日の授業の目的は、パン作りを通して、小麦粉（強力・中力・薄力）の性質を理解することと、マヨネーズづくりを通して、たまごの乳化性を理解することです。」

生徒に感想を聞いてみました。

Aさん： 初めてパンを作りました。生地の手触り最高です。

焼く前後の違いに感動しました。また作ってみたい。

Bくん： マヨネーズを一から作ったのですが、商品レベルの出来に満足です。自信ができました。

授業を通して様々な知識を深め非認知能力を高めることが出来たようです。



◆ 福島県教育委員会 公式 note ◆

福島県教育委員会では、この4月から『公式 note』の運用を始めました。県立学校各校が『公式 note』で情報発信しています。本校の記事も随時掲載しており、この学校だよりの内容も note の記事からの抜粋となっています。右のQRコードからアクセスできますので、ぜひ一度ご覧ください。

